

処をされるよう望みたい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

勝利目前でのよもやの敗北、逆に敗色濃厚下での相手の凡ミスによる棚ぼた勝利は私の基では良くあります。人生の縮図とも言えましょう。

コロナ禍収束の光も感じますが、ご油断なくご健康でお過ごし下さい。

小園亭主敬白

- ・ 本文は、令和3年10月8日付けの岩手日報紙「日報論壇」に掲載されております。

初代奥州市長(2年目)の著述など

挨

拶



著

述

時事通信社発行「地方行政」2007(平成19)年6月18日号「道標」欄から転載。本記事を無断で転載することは固く禁じられております。

◆ 副 県 都 の 創 造 ◆

相原正明(あいはらまさあき) 岩手県奥州(おうしゅう)市長

本年2月の臨時議会において、奥州市総合計画基本構想が議決されたが、その計画においては、目指すべき都市像として、「歴史息づく健康文化都市 産業の力みなぎる副県都」と謳っている。



玄関の八角蓮(はっかくれん)

当市は、平成の大合併で、水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の五市町村が一つになり(平成十八年二月)、人口十三万人の県下第二の都市になった。

私は、この機会に岩手県における県都盛岡市一極集中時代を脱し、来るべき道州制時代をも展望した、強力な中核的都市を構築すべきと願った一人である。

無論、一朝一夕に叶うことではなく、相当の年月を要する話ではあるが、大きく、明確な方向性を持った基本目標として有用と考えた。

合併直後の市長選挙においては、50 項目のマニフェストを掲げたが、その一番目に次ように記載している。

政策 1 副県都の構築

〔目標〕 岩手県の県都盛岡に準ずる都市機能を集積し、東北の中核都市への展望に繋がるように施策を推進します。

〔方法〕 国・県・公共的団体の拠点的功能、さらには全県レベルの企業や団体の本社・本部機能の奥州市立地を一つずつ具体化します。

〔期限〕 二年以内に副県都構築構想を樹立し、具体化に着手(運動展開など)

〔財源〕 百万円(構想策定・運動経費)

市総合計画においては、「副県都を目指す戦略プロジェクト」を施策の柱に位置づけ、さらにその具体化として、「①子育て環境ナンバーワンプロジェクト」、「②知識集積型都市・高度教育都市構築プロジェクト」、「③世界文化遺産を核とした文化交流・観光プロジェクト」を推進することとしている。

「副県都」の概念は、全国的に確立された定義はなく、その用語活用もほとんどないと思われるが、新生奥州市の『気概』として、その創造に向かって、市民と共に、一歩ずつ前進していきたい。



2007(H19).6 光明寺
(奥州市江刺)へ扁額を
納める母ミツ

◆ 相原正明・奥州市長 有権者が選んだマニフェストの
神通力「総合計画」で都市像を明確に示す ◆

平成 19 年 11 月 9 日、六本木アカデミーヒルズ 49 階で第 2 回マニフェスト大賞授賞式があり、東国原宮崎県知事と並んで、首長部門審査員特別賞を頂いた。なお、大賞は、松沢神奈川知事であった。



奥州市は、平成 18 年 2 月 20 日、[奥州市民☆文士劇「水戸黄門」の](#)
5 市町村(水沢市・江刺市・前沢町・[楽屋で作家高橋克彦氏と私](#)
胆沢町・衣川村)が合併して、人口約 13 万人の岩手県第二(人口)の都市となった。

合併して最初の選挙(06 年 3 月)に立候補するにあたって、私は具体的な政策公約であるマニフェストを掲げて臨んだ。その内容とその後の取り組みが評価されたということであった。

マニフェストの内容は、「副県都の構築」、「自治基本条例」などの 23 項目の全体編と、合併協議における新市建設計画の事業を五つの旧市町村ごとに掲載した 27 項目の地区別編から成る。

就任後は、「マニフェスト担当課長補佐」という職名の職員を置き、専門に施策推進と進行管理に当たらせるとともに、1 年ごとに評価(自己評価)して公表している。 かつて、平成 15 年(03)の統一地方選挙において当時の増田岩手県知事(現総務相)が全国に先駆けてマニフェストを掲げて当選した。私はその時の言葉が忘れられない。県職員が、当選直後にマニフェストの内容を実現するための方策を早くも提案してきたというのだ。

このことは、私も実感した。マニフェストの全体編の内容は、いわば全国最先端的な施策である。まずは、思いつきと受け止められがちで、実際に政策の実施に向けて職員に全力投球させるには、相当の準備とエネルギー

一を要することを予想していた。ところが、いわば有権者からお墨付きを頂いた形のマニフェストには、神が宿ったかのような力、つまり神通力があるようだ。これは、市議会に対しても同様であり、議員側の理解に格別の感がある。就任1年以内に議決を得て定めた「市総合計画」の目指すべき都市像は、「歴史息づく健康文化都市・産業の力みなぎる副県都」である。それを実現するための三つの戦略プロジェクトは、「子育て環境ナンバーワンプロジェクト」、「知識集積型都市・高度教育都市構築プロジェクト」、「世界文化遺産を核とした文化交流・観光プロジェクト」であるが、いずれも私が選挙で掲げたマニフェストに関連があるものだ。

全国の首長のみなさん、是非マニフェストをお試しあれ！

奥州市長 相原 正明

◆ 弔 辞 (H20.3.15 故菅野善悦君葬儀) ◆

☆ 弔辞朗読に先立ち述べる。

「善悦君、正明です！ 全く驚きました。とても信じられません。今からでも遅くないですから"悪い冗談だった"と頭を掻きながら出てきてください！」

長い冬が過ぎ、万物が光り輝く本格的な春の季節を迎えようとしている十日の朝、菅野毅旨さんから、大変なことが起きたと電話連絡がありました。



善悦君が亡くなったという話に、全く実感がわかず、一瞬時間が止まったような、不思議の国に舞い込んでしまったような気持ちでした。

気分にはムラのない、落ち着いた人柄、堅実に積み上げ、着実な成果を出す善悦君が、一体どうしたというのですか。いつも身近にいたつもりの私に、何のサインも送らないまま、あの世に行ったきりになってしまうので

しょうか。

何もしてあげられなかった事に、今私は、大いに悔やんでおります。

私たちは、幼なじみであり、善悦君の家のスモモの木に登って、お互いに食べあったこともありました。しかし、ケンカを含めて特別の思い出が少ないのは、なぜでしょうか。恐らく、癖のない、優しい、協調的な子供であったと思われます。それでいて、子供会では、同輩のトップで会長になったと記憶しています。信望があったと思います。

中学の時、私は、盛岡に転校し、その後、別々の地で生活しましたが、たまに帰郷した際は、いつもニコニコと「やあ、元気か。県庁で活躍しているようだね。」と迎えてくれました。

善悦君は、自分のことをあまり言わない謙虚な人物でしたが、その実、着実に大きく成長していました。

昭和 41 年、岩谷堂農林高校卒業後、富士産業に勤め、その後、千葉県内の不動産会社に移り、宅地建物取引主任者の資格を取り、南部土地(株)に就職されました。やがて昭和 61 年独立し、広和土地建物、次いで(有)ニコーホームを設立し、その経営者として着実に実績を積み重ねられました。

こうした力量と信望で、最近では、岩手県宅地建物取引業協会奥州支部理事兼副支部長、同じく県理事として、活躍されていました。



菅野善悦君(向かって
右から 2 人目。H15)

一方で、地域の活動にも熱心であり、私と同じ橋本部落で、農協総代や農家組合長などの役職を歴任し、率先して地域づくりに汗を流されていました。四十数年ぶりに地元に戻ってきた私にとっては、部落に残っている唯一の同級生であり、本当に頼りになる存在でした。善悦君とは、よくゴルフをしましたが、腕前は、一枚も二枚も上手で、たまに善悦君が出だしでミスショットを連発し、出遅れた場合でも、たちまち追いつかれ、抜き去られるのが常でした。その間、いつもニコニコ、爽やかなパートナーでした。

実は、大変なスポーツマンであり、二十代、富士産業に勤務していた頃、全日本実業団卓球選手権大会や全日本軟式卓球選手権大会などで選手とし

て活躍していました。その後は、旧江刺市卓球協会や奥州市卓球協会の役員として、協会の発展に多大の尽力をされたのでした。

また、善悦君とは、良くお酒を飲みました。とにかく楽しい酒でしたが、飲んだ最後は、寿司やラーメンなどを食べないと収まりが悪いといった風でした。最近、お互いにメタボ腹が気になっていましたので、「控えようか」という話もしていました。岩谷堂で飲んだ時などは、歩いて帰ろうと言われて、何回か付き合ったものです。ほかの同級生から交通事故が心配なので、止めるべしと忠告されて、止めましたが、今となっては、もう一度二人で、月夜の道を歩きたいものです。

善悦君はまた、家族想いでした。昨年ふらりと来訪し、色紙を一枚書いてほしいと言うことでした。聞けば、息子さんを中心に学習塾の仕事を立ち上げる、ついては、教室に飾る色紙がほしい、中身は任せると言うことでした。そこで、さんざん古典を調べ、考えた挙句、「学上達」という言葉を選び、色紙にしたためました。大変喜んでいただきましたが、私は、家族思いの人柄を強く感じたところです。

選挙についても話さなければなりません。江刺市長選、奥州市長選では、同級生のけん引役として、陰に陽に大変な力を発揮していただきました。そうした中、一旦危機が訪れた時は、真っ先に会いに来て、とにかく頑張ろうと励ましてくれました。奥州市長選では、知己の少ない水沢区内を仕事や趣味などあらゆるネットワークを生かして案内してくれました。感謝の言葉ありません。

せっかく市長に押し上げたのに、大丈夫かとご心配のことと思います。初代奥州市長として、間もな



江刺カントリー倶楽部(奥州市)

く任期の折り返しに入りますが、山積する難問に立ち向かいつつ、市勢の発展と市民の幸せ向上のため、邁進致しますので、どうかご安心ください。

善悦君は、一足先に極楽浄土に出向き、良いゴルフ場を早くも見つけ、懇親会付きのゴルフコンペを楽しみながら、同級生の来着を気長に待っているかも知れません。

いずれ、合流するとしても、こちらは、まだまだやらなければならない事が沢山残っています。もうしばらくお待ちください。

別れがたい思いは、尽きることがありませんが、善悦君の愛してやまないご家族に限りない御加護をお願いしつつ、この辺でお別れと致します。

弔句 極楽の ゴルフ場にも 春の雨 江山

善悦君、ありがとう！ 本当にお世話になりました。

安らかに眠りください ！

平成 20 年 3 月 15 日

奥州市長 相原 正明

◆ 相 原 正 明 の 俳 句 集 ◆

私の趣味として、俳句を標榜している関係で、ときに名誉選者を依頼されたり、「句集はありませんか。」と聞かれたりする。

現在は、「開店休業」又は「月 1 日開店」のような状態ではあるが、これまでの作句を整理して、掲げてみることにした。

☆俳句経歴

平成 2 年 双葉俳句会(盛岡市内の同好会)入会

同 3 年 俳誌「樹氷」(小原啄葉氏が主宰)入会

同 6 年 樹氷新人賞受賞

同 7 年 樹氷同人

同 8 年 岩手県俳人協会会員



羽化したばかりのクロアゲハ

◇新年の句(括弧内は、作成年)

参道を塞いでおりし初写真(H3)

何も無き壁に掲げて初暦(H3)

初とんび飛ぶ数だけの抱負かな(H5)

かんざしや成人の日の忘れ物(H5)

振袖が閉じて開いて初写真(H7)

初売りの菓子の如意輪坐像かな(H8)
大事件多き干支なり読始め(H11)
放談のように聞こえて初雀(H11)
副県都談ずるごとし初雀(H19)

◇ 春の句

学院長の声のみ響き卒業歌(H3)
酔うて出る自慢話や春炬燵(H3)
雪解道分譲宅地の旗騒ぎ(H3)
雲の下に雲が浮かんで春田かな(H3)
春眠の浜辺を揺する波頭かな(H3)
椿咲く裏山暗し金閣寺(H3)
抜け道を塞いでおりし蔭の臺(H3)
ネクタイは父母の手が締め卒業子(H3)
川船は沈む如くに濃山吹(H3)
桜背ににこりともせぬ姉妹かな(H3)
春風がチャイナドレスを襲いけり(H8)
ガタゴト春風家にいるらしく(H6)
山吹や幾度も覗く万歩計(H6)



俳句結社樹氷の新人賞を
を受賞(H6.8.21)

◇ 夏の句

夏雲は寝そべっておりハイウェー(H2)
のうぜんの朽ちたるもあり垣の下(H2)
山をなす神輿の端に月止まり(H2)
草茂る坂を登れば山上がる(H3)
リボンまで生けられておりカーネーション(H3)
離れ岩現れ沈む夏の海(H3)
髪長き僧侶もおおりて夏葬儀(H3)
夏の川橋の人影絶えにけり(H4)

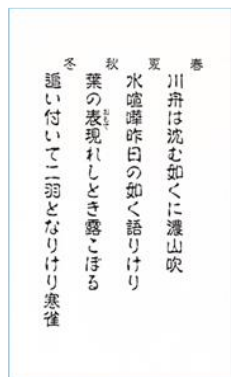
空の青重ね塗りして夏の山(H4)
 津波来し高さのあたり百合の花(H4)
 骨董の瓢箪揺れて蟬時雨(H4)
 一人ずつ堤塘を行く衣更え(H5)
 雲の色映して暗し夏の海(H5)
 応援のウェーブとなる夏木立(H5)
 会議閉じリンドウ娘迎えけり(H7)
 水喧嘩昨日のごとく語りけり(H8)
 夏衣いよいよ女の腕白し(H8)
 団扇手に吾子と並んで背比べ(H7)
 涼やかに女佇むクラフト店(H7)
 雲重くゆっくり沈む夏の夕(H6)
 ふるさとの社交場となる墓参かな(H8)



俳句名刺(表)

◇ 秋の句

新涼や大根一本腕の中(H2)
 もの思う目に秋蝶が躍り込み(H2)
 地の果てまでも雲厚く蜻蛉飛ぶ(H2)
 亡き祖父の植えし葡萄を胃に落とし(H2)
 セスナ機もトンボも同じ方へ飛び(H2)
 柿紅葉日差しが消えてしまいけり(H2)
 説明の指に止まりし蜻蛉かな(H3)
 秋日和道に木の影家の影(H3)
 爽やかや子等と比べる足の裏(H3)
 曲屋の座敷は暗し白むくげ(H3)
 菊売りの籠を背にして眠りたる(H3)
 紙袋コキリと鳴りて秋深し(H3)
 深山の枝の一振り初紅葉(H3)
 羽化終えてみずみずしきかな秋の蝶(H3)



俳句名刺(裏)

葉のおもて現れしとき露こぼる(H3)
鳥の尾が音頭取りたり秋出水(H3)
言うまいと思いつ子に言う虫時雨(H3)
参道におでん匂える秋祭り(H3)
暗闇にホニオは踊っているような(H3)
二階から吾子声かける菊の道(H3)
子らの輪が伸びて縮んで秋日和(H4)
トンボ来てしばし遊んで帰りけり(H4)
あいさつを案山子が笑って聞いており(H4)
秋風や時計の針がつと動き(H5)
吹く風に溺れ沈みし秋の蝶(H5)
しがみ付く岩をトンボも掴みおり(H7)
妻の足大きく見えし今朝の秋(H7)
爽やかや畳一枚あればよし(H8)
大鍋が座敷に二つ芋煮会(H8)
ビル街に氏子現る秋祭り(H8)
乾杯に故事を添えたり温泉家(ゆや)の秋(H9)
パソコンのボタン一つで菊薫る(H9)
葡萄一つ試食して去る道の駅(H9)
アテルイの里に列なすホニオかな(H9)

◇ 冬の句

落ち葉起きて坂道つとと昇りけり(H2)
夕暮れて雪像高く尖りたり(H3)
ななかまどコンクリートに落ちにけり(H2)
くわえたる紙の白さや寒参り(H3)
雪嶺を雲駆け抜けてリフト着く(H3)
飛び跳ねて吾も吾もと落ち葉かな(H3)
風花に墓石も赤し山上三太夫(H4)

追いついて二羽となりけり寒雀(H4)
時雨きてナメクジとなる裸婦の像(H4)
雀来て少し揺れたる冬の枝(H5)
二羽飛んで何ものなきかな田(でん)の冬(H5)
冬晴れや天気男と呼ばれおり(H7)

マニフェスト大賞受賞

- ◆ 毎日新聞(2009. 11. 10～11. 11)記事 ◆
「インタビュー： マニフェスト大賞審査
委員会特別賞 奥州市長相原正明さん」
から転載

2009. 11. 10①

首長と地方議員の政策コンテスト「第2
回マニフェスト大賞」(ローカル・マニ
フェスト推進首長連盟主催・毎日新聞社後
援)の受賞者が9日発表され、相原正明・
奥州市長が審査委員会特別賞を受賞した。
相原市長に話しを聞き2日に分け紹介す
る。まずは受賞の感想やマニフェストの
効果などを尋ねた。【石川宏】



毎日新聞の記事

—実現可能な最先端盛る— 一職員、議員にも効果—

—東国原英夫・宮崎県知事の「そのまんまマニフェスト」と並ぶ評価で
す。

一定の評価を得たのは望外のこと。全国注目のマニフェスト選挙を行っ

た「動く宮崎県の広告塔」と同じとは本当にありがたいこと。

— マニフェスト効果はありましたか。

奥州市 1400 人の職員集団に政策を理解させその気にさせるまで普通は相当時間がかかる。最初は新首長の話聞くだけ、2 回目で「本気かな」と思い、3 回目でやっと「やっぱりやんなきゃ」。しかしマニフェストに掲げると職員も登庁前から覚悟する。もう一つは議会。議員も初めての話には抵抗を感じる。ところがマニフェストの政策は有権者の支持を得ているので受け入れられやすい。例えば合併問題はマニフェストになればとても言えなかった。



マニフェスト大賞審査
委員会特別賞 賞状

— 全体編 23 政策全部足しても事業費合計で約 5,000 万円、市の一般会計の 0.1%にも満たない、と私は当選翌日に批判しました。

マニフェストはすべてを網羅するとは限らない。私も当選後の実現可能性を確実に見込んだ分しか書けない。総合計画ではないからすべて網羅し数値を入れるのはかえっておかしい。もしそうなら 1 人で作るのはほとんど不可能。

— 競馬についても一言も書かなかった。

競馬、水沢病院、土地開発公社の 3 点は当選すれば避けて通れない大問題と分かっていたが当選してからの話という思いだった。私がマニフェストに盛り込んだのは、全国自治体の最先端の政策。そして簡単にできそうでぜひやりたいもの。さら苦しんだ末だから並の都市づくりではダメと副都府……。最先端のものと一番やりたいことを数値を入れて書いた。

— 「4 年制大学誘致」のように実現が難しそうな施策もあります。

できない項目が一つあったからどうこうでなく、テストでいえば百店満点で何点取ったかが問われる。百店満点は難しいし、逆に簡単だったら自らのハードル設定が最初から低かったのかとなる。

— 達成状況の検証は。

できれば外部評価を加え検証する義務があると思う。審査委員長の北川正恭さんも、自分で自分を評価すると必ずしも適切な評価にならないと言う。客観的な第三者に一定の評価をしてもらうのがいい。

新生奥州市政策宣言 相原正明・奥州市長が06年3月の市長選で配布したマニフェスト。全体編23政策、地区別編27政策の計50政策を盛り込んだ。全体編の政策は「副県都の構築」「自治基本条例の

制定」など独自施策でそれぞれ▽目標▽方法▽期限▽財源を明記した。地区別編の政策は「水沢区に保健福祉市民センター整備」「衣川区で中学校建設事業」など具体的な事業。ただし新市建設計画の抜粋。

2009. 11. 11㊦

首長と地方議員の政策コンテスト
「第2回マニフェスト大賞」（ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟、ローカル・マニフェスト推進首長連盟主催・毎日新聞社後援）で審査委員会特別賞を受賞した相原正明・奥州市長。



受賞式風景

今回はマニフェストによる選挙の変化や、選挙戦での効果などを聞いた。

【石川宏】

—主張浸透に効果的な武器— —政策本位の選挙へ—

—マニフェストで選挙は変わりますか。

1回ではダメだが、2回、3回繰り返せば政策本位の選挙になる。

—奥州市長戦でマニフェストを掲げたのは相原市長だけでしたが、いずれマニフェスト選挙が定着すると思いますか。

期待はするけれど定着するかまでは論じていない。マニフェストを掲げない人が候補者にふさわしくないとまで言うつもりはない。それはその人の考え方。

— マニフェストの有無と選挙の当落は別ですよ。

選挙は選挙、それは別。

— 選挙でどれほど役立つかわからないがマニフェストを出した。

私は自分を「理想主義的現実主義者」と考える。理想的に考え現実的に行動する。選挙では理想的に考えるとマニフェストは掲げるべき時だと判断した。実行力や新鮮さの評価にもつながるしアクセントも置ける。ただ勝つためには現実的に対応する必要がある。5地区すべてに後援会支部を作り全く現実的な泥くさい従来型



受賞式会場での放映

のどぶ板選挙をした。マニフェストは専門スタッフを3日3晩缶詰にすれば作れる。作るのはそう難しくない。相手も持っている、せいぜい自動小銃くらいのものだ。戦術的にはできれば相手の2、3倍あった方がいいがそれがすべてではない武器。

— 戦略的には大して期待していなかった。

ところがふたを開けるとすごい威力の大砲だった。

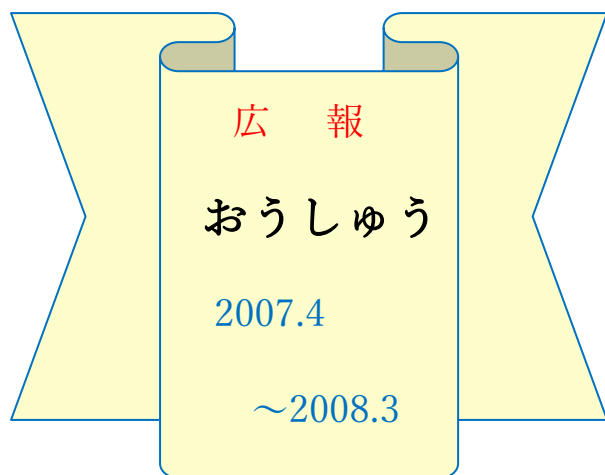
— 具体的に言うと。

私本人はピンと来なかったが、後援会の方が歩くときに大変受け入れやすかったと聞いた。2、3分で簡単に相手に政策をアピールしやすかったと。あと普段は選挙で何も言わない奥さんが私のマニフェストを見て「コンビニ納税をしてくれる人いいね」とだんなさんに話し、それで夫婦そろって投票してくれたとも聞いた。

— 地区別編 27 政策は新市建設計画の列挙でした。

これをマニフェストと言うのはつらいかもしれないと自分で思いながら時間切れで書いていた。だが有権者にはこれが受けた。全体編は行政のプロでも難しいが地区別編は分かりやすい。また、あとで気づいたが住民は新市建設計画を一切知らされていなかった。合併直前のバタバタで議員さえちゃんと認識していない。私のマニフェストで「初めて見る話」とクギ付けになった。そんな思いがけない効果があった。

奥州市長選 5 市町村合併で誕生した奥州市の初代市長を選ぶ選挙。06 年 3 月 12 日告示、19 日投開票。▽県職員を経て旧江刺市長の相原氏▽水沢市議を経て旧水沢市長の高橋光夫氏▽小沢一郎氏秘書を経て元衆議院議員の高橋嘉信氏一のいずれも無所属新人の 3 氏が三つどもえの激戦を展開した。開票結果は相原正明氏 3 万 484 票、高橋光夫氏 2 万 8068 票、高橋嘉信氏 2 万 5078 票。



(市広報写真)



お元気ですか 市長です ! (2007.4 月号)



4 月 1 日の前沢温泉舞鶴の湯の温泉まつり当日は、紅梅が咲き初め、鶯が鳴く、誠に良い日和でした。新年度もこうあってほしいと、思わず願いました。

合併実質初年度の昨年度は、無我夢中で駆け抜けた 1 年であったと思います。

合併時の約束ごとを確実に実施するため、新市建設計画の、いわば仕上げ・確定作業を年末までに行いました。

年明けには、議会の議決を得て、市総合計画 10 ヶ年計画を策定するとともに、財政の裏づけを確保し、行政の効率を高めるため、行財政改革大綱を定めたところ です。



(市広報写真)

私自身のマニフェストの実現についても予算化を進め、必要なプロジェクトを立ち上げました。

市民団体の中でも、社会福祉協議会、体育協会、芸術文化協会の統合など、新市の一体感を進める取り組みが随所で行われております。

昨年度末、存廃問題で大きく揺れた岩手競馬も存続で決着するとともに、市財政の安定を見ることができました。

合併して良かったと市民の皆様にも真に思っただけのよう、さらに邁進いたします。



お元気ですか 市長です ! (2007.5 月号)



4 月 29 日午前 10 時 40 分、花曇りの中、錦絵巻のように豪華絢爛たる 9 台のはやし屋台が勢ぞろいし、日高神社に向かって遥拝式が行われました。

日高火防祭実行委員会会長として、市内外からお集りの大勢の観客を前に、「副県都に向かっての新市の着実な離陸のためにも祭りを成功させたい」とあいさつしたところ です。



日高火防祭の遥拝式
で挨拶(H19.4.29)

祭りは、最後まで好天の中、夜のはやし屋台の相打ち、揃い打ちでクライマックスを迎えました。

4 月 15 日には、前沢区の市街地で、「奥州前沢春まつり」があり、三日町組や厄年連の踊りが繰り出されました。

21日は、胆沢区の徳水園前で「水の郷さくらまつり」のメイン行事があり、もちまきをしながら、桜の回廊のライトアップを待ちました。

この原稿の締め切り後の5月3日は、水沢区で「子供騎馬武者行列」、同日と4日には、江刺区で「江刺甚句まつり」があり、騎乗と踊りに参加いたします。

市民の皆様には、合併によりオラホの祭りとなった、このような祭りに参加し、お楽しみいただきたいと思います。



お元気ですか 市長です ! (2007.6 月号)



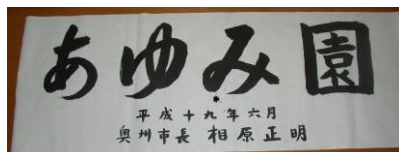
6月スタート早々、市内5自治区を駆け巡り、大変充実したときを過ごしました。

1日の午後6時15分からは、水沢区多賀の水沢医師会館で市営の小児夜間診療所開所式が行なわれました。

医師会の全面的な協力の下、365日休みなしで、午後6時半から9時まで、子どもの病気やけがに関する初期診療を行います。

3日には、まず、市の西端、胆沢区の焼石連峰つぶ沼登山口付近で、午前7時から山開き行事に参加。終了後すぐに車に飛び乗って、今度は市の東端、江刺区の種山に向かい、午前10時から山頂付近で種山高原山開きに臨みました。

奥州市の広さを満喫する間もなく、今度は前沢区のいきいきスポーツランドに向かい、正午に前沢牛まつり会場で、万余の客に来場御礼のご挨拶をしました。



看板への揮毫(原稿)

4日には衣川区の前戸で、衣川保育所と衣川幼稚園の幼保一体化施設「あゆみ園」の落成式があり、地元木材が多く使用され、木のぬくもり溢れる園舎で式辞を述べました。

素晴らしきかな、奥州市! 思わず口ずさみました。



お元気ですか 市長です ! (2007.7 月号)



入梅とはいえ、日差しの強い暑い日が続いております。

ところで、サマータイムをご存じですか。

夏の間、勤務時間を 1 時間ないし 2 時間早めて、日没前の時間を有効にしようという取り組みです。

欧米を中心に世界の約 80 カ国で実施されており、長くなった時間で余暇を楽しむことができ、照明や冷房の省エネルギー対策としても期待されています。

日本では、札幌商工会議所が中心となった取り組み(実証実験)がほとんど唯一のものであり、その意味で、昨年からは、水沢青年会議所が進めているサマータイム試行は、画期的なものです。

ことは、6 月 21 日から 8 月 11 日までの間、約 60 団体が参加しますが、今回、初めて公共機関である胆江広域水道企業団(職員 7 人、奥州市と金ヶ崎町で構成する一部事務組合)が加わり



サマータイム試行に関する岩手日日新聞記事(H19.6.22)

朝 7 時半出勤、夕刻 4 時 15 分退勤の形で、1 週間参加しました。初日の夕方、職員の家族そろってのパーティ参加が、とても印象的でした。

奥州市の特色としてさらに盛り上げられればと思います。



お元気ですか 市長です ! (2007.8 月号)



「共稼ぎですが、夫と協力して、家事を分担し、子供のおむつ替えなども基本的に夫が行なっています。」

7 月下旬の、出産前後の女性職員を対象とした「市長と職員のディスカッション」のひとコマです。

市は、今年3月に「子育て環境ナンバーワンプラン」を策定し、企業における子育て支援の促進などに力を入れています。まず、実際に奮闘中の女性職員の意見・感想を聞き、今後の施策の参考にしたいと考えたものです。

「子供を連れてレストランに行ってもおむつ替えが大変。ベッドはあるものの、においが心配。市役所にもこういう観点からのスペースが必要ではないか」「学童保育が定員オーバーとなっており、困っている」「役所と違って、民間では育児休暇を1年も取ることは難しいようだ。市民ぐるみの意識改革が必要では」「身近なところに、子供と遊べる場や施設がほしい」など貴重な意見が沢山ありました。「市長が旗を振ることで、育児の休みも取りやすい」という激励を含めて、大変有意義なディスカッションとなりました。



お元気ですか 市長です！（2007.9月号）



「調布市民プラザあくろす」には、東京都調布市の市民と職員が75人ほど出席し、6人の市区長の話に熱心に聴いています。

8月26日、第10回未来の都市を創る市長の会が調布市で開催され、同市長、鳥取市長、岐阜市長、目黒区長(東京都)、横手市長(秋田県)、そして座長を務める私が出席しました。



このほかのメンバーとしては、市原 第10回未来の都市を創る市長の会市長(千葉県)と平塚市長(神奈川県)がいますが、この日は欠席となりました。

今回のテーマである行財政改革に関して、調布市長は、行政評価システムとその成果を基にした市民参加による基本計画づくり、また横手市長は、行政経営品質向上のためのサービスの質を高める仕組みや組織のあり方について述べました。

目黒区長からは、汚職事件に端を発した職員倫理条例と公益通報者保護条例、岐阜市長からは市営バスなどの民営化、鳥取市長からは、ISO9001・14001 のダブル取得などの発表があり、私は市場化テストの試みについて述べました。

質疑も含め、大変盛り上がりました。



お元気ですか 市長です ! (2007. 10 月号)



郷土の偉大な作家、三好京三(本名・佐々木久雄)先生を偲ぶ会が、9 月下旬に前沢区内であり、多数の人々が列席しました。

2 枚の写真を刷り込んだはがきが、参加者に配られましたが、それは代表作「子育てごっこ」の一節「分校は、ひときわ目立つ高台にあった」を刻んだ石碑の写真でした。



三好京三先生

三好京三先生は、昭和 6 年に前沢町に生まれ、一関高等学校卒業後に教員となり、37 年から衣川小学校大森分校に勤務しました。

49 年、その分校に作家きだみのるが娘ミミ(本名・深尾千尋)を連れて来訪しましたが、結局、三好夫妻が娘ミミを預かり、分校に住まわせることになったのでした(後に養女とする)。この間のことを題材にした小説「子育てごっこ」が、52 年に直木賞に輝いたのです。

その後も、数々の小説などを発表されるとともに、歴史・自然や郷土芸能に関する市民団体の活動などにも積極的に参加されました。

今後、三好先生の業績をしっかりと顕彰しつつ、青少年にも伝えていきたいと思います。



お元気ですか 市長です ! (2007. 11 月号)



メルボルンの空港に降り立つと、ほぼ 1 年半ぶりにお会いするジェニ

ー・フーラハン市長が出迎えていました。

用意されたバスに乗り込もうとしたとき、同市長から、訪問団一行(17人)全員に美しいオーストラリアの花、スカーレット・パンクシアなどの花束がプレゼントされ、一同感激しました。



フーラハン市長と

姉妹都市グレーターシェパートン市は、オーストラリアのビクトリア州・州都メルボルンから北へ187キロの位置にあります。人口約5万9千人、面積2421平方キロで、果物の産地であり、食用肉と乳製品の加工が盛んな市です。

その夜の歓迎レセプションは、市庁舎内のホールで、互いの記念品交換を行い、ワインを酌み交わしながら、終始和やかに進みました。

翌日は、両市長の間で交流計画書にサインし、来年度から中学生の派遣交流を推進するとともに、産業・教育・文化芸術などの交流事業についても検討し、進めることを確認しました。

4年後には、本市が公式訪問を受ける番になります。

市民の皆様にも、積極的な交流をお願いいたします。



お元気ですか 市長です ! (2007.12月号)



11月5日から16日にかけて、本年度の市政懇談会を市内5自治区で行いました。

まず、「自治基本条例」「総合水沢病院などの医療問題」「岩手競馬」について説明し、このテーマや「そのほか何でも」の課題について、活発な意見交換を行いました。

質問・意見にお答えする形で申し述べましたが自治基本条例については、市民の方々からなる検討委員会の中間報告が出されている状況にあります。



(市広報写真)

す。今後さらに市民の皆様のご意見をお聞きしながら、十分な理解と合意を得て進めたいと考えております。

また、総合水沢病院の経営問題に関しては、国(総務省)の経営アドバイザーの提言を受け止めながら、早期に抜本的対策を打ち出したいと考えております。

さらに、岩手競馬については、本年度から新ルールでスタートし、徹底した経費節減により、年度末の経常損益が黒字となる見込みとなっております。今後、民間委託の拡大などを含めて、一層の経営努力をまいります。

そのほか、貴重なご意見をたくさん頂きましたので、市政に生かしてまいります。

★ 年 頭 の ご あ い さ つ (2008 新年号) ★

明けましておめでとうございます。2008年の新年にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

新生奥州市の誕生から約2年が経過し「合併後最初の4年」の折り返し点に入りました。昨年は、市民憲章の制定や市民の花鳥木を「さくら」「きじ」「もみじ」と決定し、誕生1周年記念式典において市民の皆様にお披露目することができました。また公募による歌詞に歌手のさとう宗幸さんが作曲された「奥州市民のうた」も出来上がり、新年交賀会でご披露したところでございます。

これまで市としての一体感の醸成と各自治区の均衡ある発展を目指し、職員一丸となって諸施策を進めてまいりました。合併3年目を迎える本年は、各分野にわたる施策を実施していくとともに次の重点施策を掲げ積極的に取り組んでまいります。



(市広報写真)

- 1 副県都構築構想の着実な推進
- 2 平泉の世界文化遺産登録を契機とした文化・観光・産業振興
- 3 新市建設計画・総合計画に位置づけた事業の着実な実施、副県都を目指す戦略プロジェクトの推進
- 4 新農政への円滑な移行などを通じた農業振興、産学官連携・企業誘致を生かした工業振興、中心市街地活性化策を基軸とした商業の振興
- 5 新しい地域づくりシステムとしての地区センター構想について、地域の実情に合わせた形での全市的な展開
- 6 市民が税の使途に直接参加することにより、納税者としての意識や市民参画を高める「いわゆる 1%条例」や地域通貨など新進的施策の導入
- 7 市民との対話を深めるため、市内概ね 30 カ所での市民懇談会の開催
- 8 まちづくりの理念や市民参画についての基本的な考え方を明らかにする「奥州市自治基本条例」について、市民理解を深めたうえでの制定
- 9 岩手競馬の経営安定化の確立
- 10 総合水沢病院の基本的経営改革などの立案と実施
- 11 土地開発公社の経営健全化の新案樹立と実施
- 12 マニフェストの着実な実施と外部評価制度の導入
- 13 行財政改革の着実な実施。政策評価システムの定着化および要求枠の設定などの財政改革
- 14 組織機構改革の着実な実施と職員の総合力発揮のための仕組みづくり。特に管理職による業務達成目標の設定と検証システムの導入

以上、合併構成市町村との約束事項を今後とも着実に実施するとともに、合併成果の検証結果を市民の皆様に説明します。また新たな課題に対しましても果敢に挑戦し、未来へ向け大きく飛躍する夢のある 13 万人副県都への歩みを一層進めて参ります。

本年も市議会のご指導のもと、職員とともに各般の施策に引き続き意欲的に取り組んでまいります。

市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさ

つといたします。



お元気ですか 市長です ! (2008. 新年号)



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、岩手競馬の存続決定(3月)の朗報もあれば、60年ぶりともいわれる大雨洪水災害(9月)もありました。ことしは、平泉の世界文化遺産登録決定をはじめとする多くの明るい出来事を期待するところです。

さて、昨年末近くに3つの大事な会議を開催しました。

1つ目は、農林基本問題懇談会です。これは米価下落により農業が疲弊しており、原油価格の高騰が農林業に響いていることなどを重視し、市と農林業関係団体が、国への要望行動や低利融資制度の検討を取り決めたものです。

2つ目は、原油価格高騰対策連絡調整会議で、市幹部職員が協議し、低所得者・高齢者・母子世帯などを対象に福祉灯油として助成することなどを確認したところです。

3つ目は、広域市町村合併研究会(市役所内の組織)で、3月までに金ヶ崎町や平泉町との合併についての研究取りまとめを行うことにしております。

市勢発展や市民福祉の向上のため、着実に成果を出してまいります。



お元気ですか 市長です ! (2008. 2月号)



2月2日から4日まで、市内5自治区で市政懇談会が開催されました。

今回のテーマは、まず自治基本条例です。まちづくりの憲法ともいわれます。私のマニフェストでは、19年度中の制定の目標ですが、市民の皆様や市議会の声をもとに、20年度中の市議会提案を目指し、さらに議



(市広報写真)

論を深めたいと考えております。

もう1つは、いわゆる「0.4(オーシュウ)%条例」の制定であり、やはりマニフェストに沿ったものです。市民税の0.4%分(約1300万円)をNPOなどの市民活動の支援に充てることにし、市民が投票で支援額を決める制度です。

さらには、20年度からの市行政組織機構の見直しです。産業経済部を商工観光部と農林部に分けるほか、本庁機能強化のため、総合支所の一定数の職員を本庁に移します。また本庁舎が手狭になることから、教育委員会などを総合支所に分散配置します。

懇談会では、以上の3点を説明し、市政全般についてご提言などをいただきました。貴重なご意見を今後の市政に生かしてまいります。



お元気ですか 市長です ! (2008.3月号)



舞台に出ていくと、満席の客席から「ワァー」と声が上がり、何をどう述べても喜ばれるような気がして、セリフも苦になりませんでした。

時は1月27日、所は江刺区のささらホール。奥州市民☆文士劇「水戸黄門」の舞台での体験談です。



江刺の演劇が、常に笑いを引き出そうとし [奥州市民☆文士劇練習風景](#) たことと比べると、2月23日から24日にかけて胆沢文化創造センターで開催された第24回奥州胆沢劇場「阿吽(あうん)」のそれは、不安と緊迫と安堵でした。舞台上の仁王像の素晴らしいセットに見とれながら、人間が皆美しい心を持っていることを感じさせる、感動のドラマでした。

実は、この原稿は最後にご紹介する第8回奥州前沢劇場「三沢姉妹物語」(3月2日)を観劇した直後に書いております。豪華絢爛(けんらん)の武家衣装とともに、歴史に名高い伊達騒動を軸とした重厚な物語が展開されます。ここでも最後は、人間の良心が勝利したようです。

それぞれに共通するのは、終了した直後の舞台側と観客側との熱い一体感です。明日のエネルギーに通じること請け合いです。

庁議における市長からの話(指示)

(説明: 毎週 1 回、市の幹部職員からなる庁議(「庁内連絡会議」と称していた)において、市長から幹部職員に話した内容を当時の手持ちメモから書き表したものです。このいわば市長指示は、およそ 1,300 人の全職員に伝わっていくことになります。)

★ H19.4.某日 の市長からの話(指示)

- ① 市長への協議等資料は事前に秘書に渡しておいてほしい。 ② 区長に十分連絡・協議のこと。 ③ 奥州大使の件、施設命名権の譲渡の件

★ H19. 4 某日 の市長からの話(指示)

- ① 職員の祭り参加を評価。ただし、勤務中(現場往復含む)の買い物に注意のこと。
② 連休中の連続休暇を推奨 ③ 奥州エフエム放送の活用



市の花鳥木パネルの除幕

(H19. 6. 25)

★ H19.5.7(月)の市長からの話(指示)

- ① 合併事務調整機能の再設置を行う。 ② 各総合支所に市総合計画の目指すべき都市像「歴史息づく健康文化都市産業の力みなぎる副県都」の標語を表示(看板設置)する。 ③ 市長マニフェストの 1 年目検証のことを記者会見で話したい。